

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 50人

② 算数 50人

③ 理科 50人

#### 5 留意事項

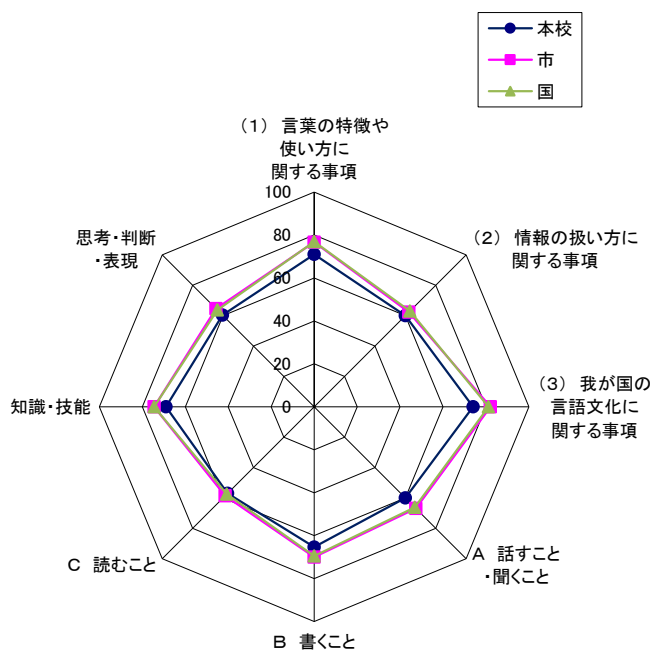
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立国本中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	71.0	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	60.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	60.0	67.0	66.3
	B 書くこと	65.3	70.0	69.5
	C 読むこと	57.0	58.6	57.5
観点	知識・技能	69.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	60.4	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

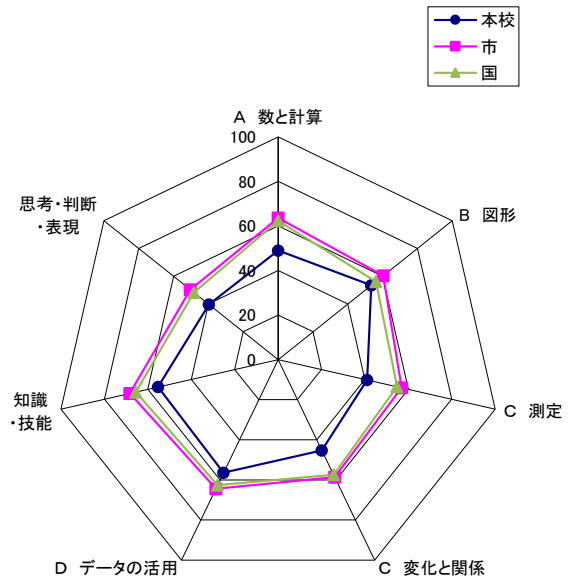
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみることに課題が見られる。</p>	<p>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるよう漢字小テストなど繰り返し学習をしていく。また、作文指導や授業時のノート作成などで個別に声をかけるといった日常的に児童が正しく書けるような意識付けを行っていく。</p>
(2) 情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみることに課題が見られる。</p>	<p>・語句と語句との関係を理解し使うことができるようにしていくために、文を箇条書きに整理して、文章の大まかな内容を捉えたり、文と文のつながりやその効果について考えたりすることができるように指導を繰り返していく。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみることに課題が見られる。</p>	<p>・「時代」と「世代」の語句の意味を正しく理解できていなかった。今後、語句の習得のために分からない言葉を調べることを習慣化していく。</p> <p>・既習の語句や言葉を日常的に活用し、習った言葉を使えるようにしていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみることはできている。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・自分の意図に応じて話を適切に聞き取れるようにするため、グループや学級での話し合い活動を行う際には、話し合いの目的を明確にした上で、自分の考えや意見をきちんと持って話し合いを臨めるように話し合いの準備をさせていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係を注意したりして、文章の構成を考えることに課題が見られる。</p>	<p>・段落構成や段落相互の関係を意識できるように、今後も作文を書く際の構成メモを大切に促していく。根拠となる事実、理由や要因、自分の考えや意見をきちんと区別できるように付箋を利用することで、適切な文章構成で作文が書けるようにしていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、県の平均と比較してほぼ同じである。</p> <p>○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることは、よくできていた。□</p> <p>●事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみることに課題が見られる。□</p>	<p>・時間や事柄など順序を考えながら、内容を把握することができる。今後も、文章を読む際には時を表す語句や接続語に着目させていく。</p> <p>・事実と感想、意見などの関係を適切に読み取ることができていない。文末表現に着目させることで、書かれている内容が事実であるのか、考えや意見、感想であるのか見極めさせていく。</p> <p>・語句の意味が理解できていないことから、国語辞書をひくことの習慣化や読書の推進を図っていく。</p>

# 宇都宮市立国本中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	49.0	63.6	62.3
	B 図形	53.5	60.4	56.2
	C 測定	41.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	45.3	58.6	57.5
	D データの活用	56.4	64.4	62.6
観点	知識・技能	55.3	68.3	65.5
	思考・判断・表現	39.7	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

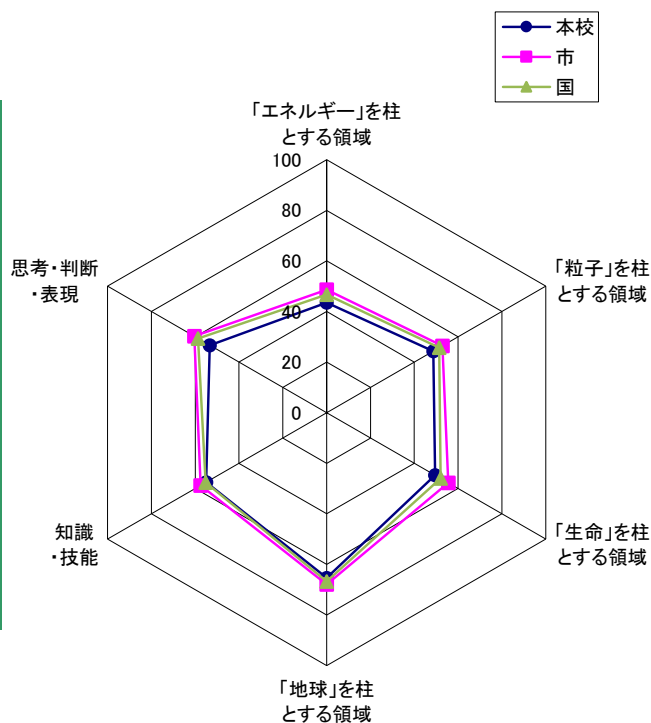
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
		今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができているかどうかをみる問題に課題が見られる。</p> <p>●異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題に課題が見られる。</p>	<p>・分数の意味を正しく理解できていないことが考えられる。具体物では円形の分数ブロックやピザやケーキなど身近なものを用いて、分子と分母の関係性を視覚的に理解できるようにする。</p> <p>・問題を解く際に図形化して数量関係を捉えることを促し、授業の中で抽象化して捉えることができるようにしていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>○角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題はよくできている。</p> <p>●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題に課題が見られる。</p>	<p>・基本的な図形の定義や性質についての理解をさらに深め、作図ができるように繰り返し問題に取り組ませる。</p> <p>・念頭操作につながるようにするため、操作活動を繰り返し行うことで実物や映像を効果的に使って指導にあたる。</p> <p>・言葉や数を使って自分の考えを説明できるようにするために、ペアやグループ学習において、自分の言葉で説明する場を設ける。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題に課題が見られる。</p>	<p>・知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題に課題が見られたため、伴って変わる2つの数量の関係や、はかりの単位や目盛り間の数値の関係性を理解する力を日常生活で算数的な思考を意識させることで身につかせていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題に課題が見られた。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。</p>	<p>・算数の授業だけでなく、普段の授業においても割合に関することを意図的に提示することで、割合についてのイメージをもちやすくできるようにする。</p> <p>・「比例」の学習において、数直線や式、言葉などを用いて基準量と比較量の関係を説明する活動を多く取り入れることで、2つの数量の関係を正確に読み取ることができるようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、県の平均と比較して低い。</p> <p>○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。</p>	<p>・引き続き、グラフの表題や数値の着目して、適切にグラフが読み取れるように指導していく。</p> <p>・必要な情報を読み取ることができていないと考えられるため、データを活用する力を高めるため、必要な情報に印をつけたり、関連する情報を矢印で結び付けたりしていく。</p>

# 宇都宮市立〇〇〇小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.5	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	48.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	49.5	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	65.3	67.9	66.7
観点	知識・技能	55.0	57.5	55.3
	思考・判断・表現	53.3	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を下回った。</p> <p>○身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は県平均を上回った。正答率は高い。</p> <p>●電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想する問題に課題が見られる。</p>	<p>・身の回りにある金属の材質を提示した後に実際に児童に実験させて、体験的に覚えさせる学習を行っていく。</p> <p>・「電気を通すもの」と「正常に作動する回路」の双方を理解しているかどうかを見る問題である。このように2つの条件を満たすものを考えるとき、それぞれの知識があっても正解に到らないケースが多くみられる。問題用紙に電気の流れを書き込んでみるなど、視覚的に考える習慣を身に付けさせる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を下回った。</p> <p>○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付けられることをみる問題はよくできている。</p> <p>●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題に課題が見られる。</p>	<p>・日常生活の中で起こる現象の原因を自分の言葉で分かりやすく説明する機会を意図的に作っていく。</p> <p>・実験をする際に「何のために実験するのか」「実験をするときに気を付けることは何か」「何と何を比べているのか」「準備するものは何か」「どのような結果が予想されるか」など、児童が明確な考えをもたせられるような授業を展開する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を下回った。</p> <p>○ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を理解している問題はよくできている。</p> <p>●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題に課題が見られる。</p>	<p>・顕微鏡の操作は、児童が感動できる学習である。○秒間以内に観察物を見つける操作をするといった楽しみながら学ぶ機会を取り入れている。</p> <p>・授業で学習したことと反対の結果が提示されており、身に付けた知識が児童の思考を妨げる発問となっている。理科の学習では、提示された結果がすべてであるので、児童が固定観念で考えないようにしていかなくてはならない。実験の際には、予想を立て、どのような実験結果が得られるのかを、根拠を明らかにしながら考える時間を確保することで、単に実験結果を覚えるだけの授業にならないようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県の平均を下回った。</p> <p>○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題はよくできている。</p> <p>●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題に課題が見られる。</p>	<p>・実験においては、人任せにせず、必ず一人一人が行うことをルール化したことが理解へつながったと考えている。</p> <p>・水の三態に関しては、特に湯気と水蒸気の違いについて児童混同しやすい。が関係する学習において繰り返し想起させる学習を取り入れる。</p>

## 宇都宮市立国本中央小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」という設問に対して、「はい」と答えた児童の割合は58.0%で県の割合を上回った。授業の最後に自分の言葉でまとめたり、振り返ったりする時間を設けてきたことで、児童の認識の中で、学習した内容が次の学習や実生活に生かすことができると実感できていると考えられる。

○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という設問に対して、「はい」と答えた児童の割合は72.0%で県の割合を上回った。授業に関わらず、日ごろの活動から児童の話合いに時間をとり、お互いの意見を伝え合う経験を積んできて結果が表れていると思われる。

●「算数の勉強は得意ですか」という設問に対して、「はい」と回答した児童の割合は24.0%で県の割合を下回った。また、「算数の勉強は好きですか」という設問に対して、「はい」と回答した児童の割合は28.0%で県の割合を下回った。さらに、「算数の授業の内容はよく分かりますか」という設問に対して、「はい」と回答した児童の割合は40.0%で下回った。基礎基本の定着が不十分であり、既習内容を活用することに難しさを感じる児童が多いと考えられる。基礎の定着を図りながら、十分に理解できている児童に対してもさらに力を伸ばせるような授業を展開をしていく。

## 宇都宮市立国本中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
他者の思いをより深く理解し、友達と学ぶよさを実感できる授業の展開	・意図的なペアやグループ学習の実施 ・自分の考えを安心して話せる雰囲気づくり	友達と協力しながら課題の解決に取り組んでいるかどうかの設問で、県の割合を上回った。授業の中でグループ活動を取り入れてきた成果が表れている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・漢字の書き取りや数の計算等、基礎基本が定着していない。	・定着を図るための時間の確保	・朝の学習や授業の最初の5分を使っての漢字や計算の反復練習や小テストの実施。